



湯浅

陸雄さん



湯浅陸雄さん 内牧1区、67歳

内牧1区区长・環境省国立公園指導員
熊本県土と水指導員・内牧町づくり座長
阿蘇市環境審議委員

今月は、阿蘇ホタルの会会長の湯浅陸雄さんに
環境づくりに対する思いを語っていただきました。

「環境月間と思う」

毎年阿蘇での、ホタルの発生は、6月10日頃である。昨年の調査によると、阿蘇市での発生地は60カ所を数えた。地域において発生の日は異なる。まず6月上旬は、温泉水の混入する、内牧、車帰、折戸等で発生を見る。その次に発生するのは、水温む6月中旬の田園地帯。冷たい山水の混入する北外輪山水系は、さらに4〜5日遅れて発生するのが例年の習慣である。昭和60年代に阿蘇でも発見された、陸生「ヒメホタル」は道路拡張工事による掘削のため今は生息していない。

阿蘇は山林地帯が多いので、どこかにたくさんいるヒメホタルが確認されるはずである。今後の調査に委ねたい。

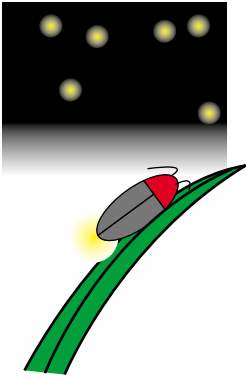
6月中旬以降に北外輪の端の河川で発生する「源氏ホタル」は数が少ない点から、発光「点滅」時間が長いのが特徴である。

関東や東北のホタルの点滅は九州のホタルより長いと報告されている。阿蘇の北外輪山端のホタルは、個体数が少ないために雌ホタルへのシグナルが長いのではと、ホタル研究者の大場信義先生は申されている。

阿蘇には、また、特別な水

タリがいる。8月中旬「お盆」の頃に発生する「オクレホタル」で、阿蘇地方では「幽霊ホタル」とも言う。水田地帯に僅かな数ではあるが発生する。また、8月中旬以降に発生する陸生ホタルの「オハホタル」は竹藪森林の中で見られる。数は少ないが発生件数が多い。雌ホタルは飛翔できるが、雌ホタルは幼虫の形で飛翔は出来ない。その他陸生ホタルの「マドホタル」もいるが生態が充分に確認出来ない。陸生ホタルの餌は主に「マイマイ」と言う巻貝を捕食している。阿蘇ホタルの会では、発生地の基本調査として、毎年発生地の確認を行う。ホタルは水との関係が深いために、昨年から阿蘇市の源流調査を実施している。坂梨、赤水までの北外輪山水系、昨年は流れの大小を問わず88ヶ所の水系が確認された。本年も6月に南外輪の源流調査を計画している。

一の宮町にもホタルの会の組織があるために、互いに情報を共有しながら、自然保護、



水質汚染、環境浄化等を推進して行きたい。

本年も環境月間を迎えるが、私たちの地域でも、内牧街の裏手を流れる、「花原川堤防」の草刈を毎年連休明けから始めるのが慣例である。堤防両岸4キロの草刈をする。年5回、秋まで実施するので、草は芝状になり景観も良くなり、散歩やジョギング等の人も多くなる。さらに企業等の合宿・マラソンのトレーニングコースとしても利用されている。このように、環境整備をする事で、阿蘇市の活性化に繋がるものだと信じている。私の知る限り阿蘇市でもたくさんの方々が地域の環境活動に取り組まれている。

先般、内牧区長会と旅館組合と合同で黒川堤防のテングス病の除去作業を実施した。共同の作業は初めての企画であり、大変有意義であった。

今後は、色々な組織と連携を取りながら、共に地域の発展に努力し、多くの住民が環境に対し理解を深め、この阿蘇の自然を生かし歴史や文化を探究して、広く阿蘇市をPRすることが要求される。

住民が互いに汗する活動が求められる時代である。常に動いていないと、町全体が良くならない。自ら汗する活動こそ行政も応援出来る要素である。国も県も市町村もこれからは、緊迫した財政である事は疑いの無い事であり、身近な自分

たちで出来る事から改善して行く事や無駄を省く活動も必要であり、住民のコミュニケーションシヨンと和が要求される時代背景となってきた。行政の中に若い地域リーダーの育成拠点を設け、将来の阿蘇市発展の基礎を確立する政策も求められる。地域のモデル地区等を作り、広報誌等で発表して行き、多くの波及効果を見出すのも効果的ではなからうか。その点、今阿蘇市が実施している、地域美化コンクール等は時限に適用良い制度ではなからうか。欲を申せば、環境モデル地域の認定制度等立案すれば更なる励みになり、農村では昔のままの里山の原風景が残り、のどかな桃源郷の確立が出来るであろう。この様な事を考える時、環境週間の時ばかりではなく、外に阿蘇市固有の「美化の日」設定等は如何だろうか。

阿蘇市には117の行政区がある。一つの区が一つの目的を持って、環境や町興しに努力するならば、立派な景観づくりや、市の活性化が出来ると思う。

私は今、熊本県で一番美しい「村づくり」を目標に、地域役員の方と相談をしながら努力中である。空き腹に飯食った様な効果は期待しないが、地味に黙々と活動を続ければ、必ず花開く時期が来ると信じている。